

11月14日(月)

軽はずみな約束

聖書朗読 ヨハネ 13:31～38

イエスは答えられた。「わたしのためにはいのちも捨てる、と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」
ヨハネ13:38

人は苦境に陥ると、軽率な約束をして神様と交渉しようとするものです。神様に助けをお願いして、自分はこれからもっと信仰をもって生活することを約束します。そのときは約束をまっとうするつもりなのですが、危機が過ぎると、自分が神様に約束したことを忘れて、いつも通りの生活に戻ってしまうこともあります。

イエス様は弟子たちと多くの時間を過ごされました。そして、特に十字架が近づいてきたときには、弟子たちと共に多くの時を過ごされました。弟子たちを慰め、今は自分と一緒に歩くことはできないけれども、のちになれば、共にいることができると説明されました。

ペテロは「主よ。なぜ今はあなたについて行くことができないのですか。あなたのためにはいのちも捨てます。」と言いました。ペテロは、自分はイエス様のために死ぬことができるほどイエス様のことを愛していると本当に思っていました。しかし、イエス様の弟子かと質問されたとき、「そんな者ではない」と否定しました(ヨハネ18:17)。

私たちの人生を振り返ると、守れなかった約束の数々があります。一度は良いと思って交わした約束も、自分が切羽詰まると守れなくなってしまうことがあります。しかし、大切なのは約束を守ること、揺るぎないこと、信頼できること、そして忠実であることです。ペテロはここぞというときに動揺してしまい、自分がした約束を破ってしまいました。

しかし、主は私たちにしてくださった約束を守ってください。主に対してや周りの人たちとした約束をしっかりと守りましょう。

讃美歌 532

祈り 親愛なる主よ。よく考えてから約束することができますように。そして自分がしたどんな約束でも果たす強さを与えてください。

イエス様のお名前において。アーメン。

スー・レイサム

今日の方

2022年11月14日～11月20日

翻訳 村越 克子
ハイステン・悦子
(スウィーニーキリストの教会)

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月15日 (火)

主にある実り

聖書朗読 ヨハネ 15:1~17

人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。
ヨハネ 15:5

家族は私のことを「働きバチ」と呼びました。やるべき仕事があれば、私はたいていそれをうまくやりました。年をとるにつれて、自分の業績が自分の価値だと思うようになりました。そして、何かができるから自分には価値があると信じていたので、できないと自分を責めました。うまくできないときは、神様や周りに人たちやと距離をおき、そして何度も心が折れました。神様のために何かをすることは、結果が全てであることを意味しません。今、私は神様とともに歩み、神様にとどまり、神様のいのちを受け取り、神さまにお頼りして実を結ぶことを学んでいます。

結果は強制されて得られるものではありません。木は実を結ぶために働く必要はありません。ただ立って水と養分を吸収して、日光を浴びれば、自然と実が成ります。それは人も同じです。私たちは、もともと実を結ぶようにつくられていて、何かを成し遂げるのは、私たちがぶどうの木にとどまっている、まさにそのときに起こるのです。結果は後からついてきます。

主はぶどうの木であり、私たちは枝です。主を信頼し、主との関係を通して、主のうちにとどまるなら、私たちは多くの実を結びます。主を離れては、私たちは何もすることができません。だから、ずっと続く価値がある物などありません。本物の関係を通して神様とつながり、自分の人生で永続の実をたくさん実らせることを経験しましょう。

讃美歌 504

祈り イエス様。あなたはぶどうの木、そして私たちが必要とする人生をお持ちです。あなたとの関係にとどまることを教えてください。そしてあなたの永遠の果実を分かち合うことができますように。
イエス様のお名前において。アーメン。

ジル・メイブリー・ムーディー
テキサス州 プレーンビュー

11月16日 (水)

流されて離れる

聖書朗読 ヨハネ 15:18~27

もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。
ヨハネ15:22

数年前のことです。私は、自分より年下のいとこと一緒に祖母の家の前の小川で水遊びをしていました。遊んでいるうちに、どんどん下流に流されてしまい、私たちの遊ぶ様子を見ていたいとお母さんの視界から外れてしまいました。

おばさんは、死ぬほどの恐怖で私たちに叫びかけながら土手を駆け降りました。私たちを捕まえたおばさんは、その場で私をピシヤリと叩きましたが、いとこのことは叱らずに、泣きながら彼を抱きしめただけでした。

「なんで、彼もぶたれないの？」と私は泣きながら聞きました。「だって、あなたは知っていたでしょ。でも彼にはよくわかっていなかったのよ」とおばさん。確かに、私は、自分たちがおばさんの視界に入っているなら大丈夫だとわかっていたのに、そこから外れてしまいました。

知っているということには、責任が伴います。私は、イエス様に従っていきたいのです。一度、イエス様を知ったなら、私たちが従わずにはいられないのです。しかし、それはある時は重荷にもなりえます。なぜかという、時に私たちはみこころより、自分のやりたいことをしたいからです。一方、イエス様を知っていることは、喜びです。イエス様を知っているゆえに、私たちは喜んで何でもできる気になります。そのような気持ちが揺れる私たちをもイエス様は信頼して下っています。

私たちは何回も、イエス様から離れてしまいます。私たちはイエス様にお仕えることに十分に集中し続けることができず、時にこの世に引き寄せられてしまいます。しかし、私たちはこの世のものではないということを、自分たちの生き方で示さなければなりません。

讃美歌 86

祈り 全能なる神様。イエス様を周りの人たちに示すことを通して、あなたにお仕えることに集中し続けることができますように。私たちへのあなたの愛をこの世で示す例になります。
イエス様の御名において。アーメン。

ランティア・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 ニューポート

11月17日(木)

たとえ話、はっきりと話す、そして真理

聖書朗読 ヨハネ 16:25~33

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」
ヨハネ 14:6

私たちは人がありのままの真実を話すのが好きです。でも、イエス様がいらした時には、たとえで話されました。「彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしない」(マタイ 13:13) からです。しかし、ヨハネの福音書 16 章で、イエス様は「もはやたとえで話さないで、父についてははっきりと告げる時が来ます。」と言われます。弟子たちは「ああ、やっと今ははっきりとお話くださっている。」と喜びますが、まだその時は来ていませんでした。イエス様がありのままを話すと、弟子たちは自分たちが理解できていないのに、理解できると言い張ったのです。

そこで、イエス様は、「あなたがたは今、私を信じるといいますか。」とおっしゃって、弟子たちの誤った自信を打ち砕かれます。イエス様がこの世を去って御父のもとに行かれるというのが、何を意味するのか、弟子たちにはわかりませんでした。イエス様が、弟子たちが散らされ、自分をひとり残して去り、迫害を受けると宣言されたとき、弟子たちはイエス様は何を仰っているのかとボカんとします。1992年公開の有名なアメリカ映画『ア・フュー・グッドメン』の台詞を借りれば、弟子たちは真実に耐えられません。

たとえ話でも、ありのままを話したとしても、両方とも真理を示しています。その真理とは、私たちが愛してくださるお父様に近づくのは御子の御名によってであり(ヨハネ 16:26、27 節)、また私たちが平安を得るのも御子にあってであるということです(ヨハネ 16:33 節)。神様は、私たちが真理を知ることができるように、神様に近づくようにと私たちに呼びかけてくださっています。

讚美歌 294

祈り お父様。日々、私たちの心をより開いて、みことばを通して、あなたのご臨在という真理に注意することができるようにしてください。
イエス様のお名前において。アーメン。

カール・F・フリ
テキサス州 ウェイコー

11月18日(金)

祈りのリストに書かれた名前

聖書朗読 ヨハネ 17:20~25

わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。
ヨハネ 17:20

私は毎週日曜日の礼拝の前に、病や問題を抱え、祈りのリクエストをされた方々のために祈りを捧げる、小グループの集いに参加しています。祈りの課題のリストは、祈りが応えられ、また、新たな課題が加えられると共に、短くなったり長くなったりします。私は今週、最も偉大な祈りのリストに書かれているのは自分のことである事に気付かされました。

正直なところ、私は聖書に書き込みをします。皆さんも書き込みされますか? 私が主に聖書に書き込みをするのは、説教で使われた聖句、親愛なる友人のお気に入り、の聖句、父が第二次世界大戦出兵中に読んで慰められた詩篇第91篇、または将来、墓石に刻めるようないい言葉のアイデアなどです。

先週、庭先でその日の聖書朗読箇所、ヨハネ第17章を読んでいました。そこには、使徒たちを通して、また聖書を通して、将来イエス様を救い主と信じる私たちのためにもイエス様が二千年前に祈ってくださっていたことに、改めて驚かされました!

讚美歌 313

祈り 天の神様。私を創造される前から私を知っていてくださってありがとうございます。あなたの優しい慈しみに感謝します。私が生きるべき道をこれからも示し続けてください。そして、あなたを失望させてしまう時は、どうか赦してください。
イエス様のお名前によって。アーメン。

ジューディ・インデスト
テキサス州 ペアーランド

11月19日(土)

思いがけない贈物

聖書朗読 ヨハネ 19:28~37

どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにおり、栄光が今の世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりに世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。

エペソ 3:20~21

“お父さん死んじゃったの？”父が亡くなってから6か月、こんな質問に何百回も答えました。記憶が衰え、脳が正確な判断をできなくなってしまった母には、父が亡くなった記憶はありませんでしたが、67年連れ添った父が母の待つ家に帰ることはもうありませんでした。母にとって一番説明のつく答えは、自分の夫は死んでしまったに違いないという答えでしたが、母は何度も何度も私にこう聞くのでした。“お父さん死んじゃったの？”そして、母が質問をし続ける限りは正直に答えると決めていた私の答えは、いつも決まってこうでした。“そうよ。お父さんは死んじゃったのよ。”

病院の先生には、母はきっとそのうち父のことを聞かなくなるだろうと言われました。母はそのうち父の死そのものを忘れてしまい、母の状態はもっと悪化していくだろうとのことでした。父が亡くなったという現実にも母が悲しんでも、私はそれを祝福だと受け止めていました。私は、母と共に過ごしたこの時間を、神様からの思いがけない贈り物として受け止めました。

救いもまた、イエス様の死なしには受け取ることの出来なかった、神様からの思いがけない贈り物です。神様の御業はミステリアスで時には痛みを伴いますが、いつでも素晴らしいものです。

聖歌 604

祈り あなたがして下さった全ての事に、感謝いたします。あなたがして下さろうとしている全てのこと事、あなたが約束して下さった全ての事、あなたという存在全て、それは私を支える全てです。イエス様、感謝いたします。アーメン。

ジル・ミムズ・マウディ
テキサス州 シャロウウォーター

11月20日(日)

過去は現在を確定しない

聖書朗読 使徒 2:28

ユダの子は、エル、オナン、シェラ。この三人は、カナン女シユアの娘から彼に生まれた。しかし、ユダの長子エルは主の目の前に悪を行ったため、主が彼を殺された。
I 歴代誌 2:3

歴代誌上の第9章1節から9節は、イエスの家系につながったダビデ王の家系図として受け止められているかもしれません。

しかし、その家系の始まりは、決して良いものではありませんでした。ユダはカナン人と結婚しました。カナン人は、その偶像礼拝のせいで神に滅ぼされるような人達でした。ユダの息子、エルはその悪い行いのために殺されました。そして、ユダは義理の娘との間に子供達をもうけました。もっと悪い行いです。

でも、このようなネガティブな始まりから、神の御心にかなった人—ダビデが、そして神の子—イエスが生まれました。過去は未来を支配しません。ネガティブな始まりが私達の将来の栄光を左右することはないのです。

私達の家系図の中には、家庭不和や悪い血筋があるかもしれません。自分達の人生にも、今となっては後悔することが沢山あるかもしれません。神様は、寛大にも私達が悔い改めバプテスマを受ける機会を与えてくださいます。私達は、新たにスタートできるのです。過去が未来を確定することはないのです。

聖歌 472

祈り 親愛なる神様。新たなスタートと新たな人生への機会を与えてくださりありがとうございます。イエス様のお名前によって。アーメン。

ハロルド・シャンク
オクラホマ州 エドモンド